

転落事故時の状況 1

転落

町道



転落事故時の状況 2



転落

市道

← 男性が死亡  
(自転車)

男性が死亡  
(自転車) →



転落

安全対策



施工後

県道大三輪十市線

ガードレール  
新設



施行前

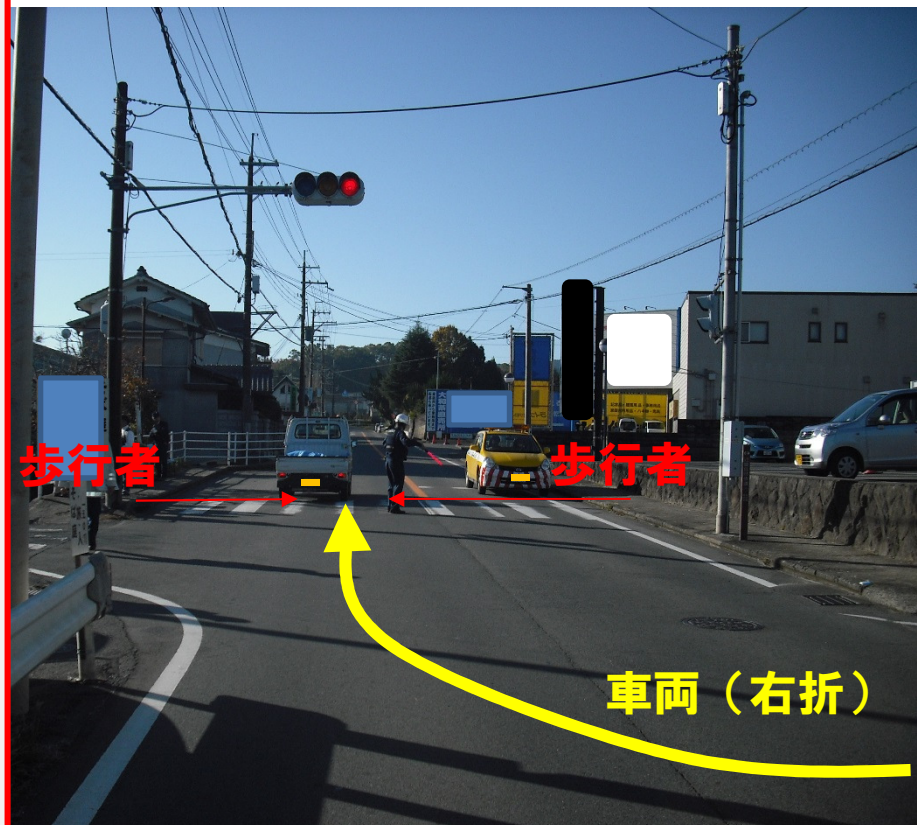
## 4 高齢者が関係する交通事故の分析（平成25年中）

### (1) 分析結果

① 高齢ドライバーが第一当事者となる事故の典型的な形態は、**信号機のない交差点**において、**左右の安全確認が疎か**のまま、**20km/h以下の低速**で進行し、他車と**出会い頭の状態**で衝突

② 高齢歩行者が第二当事者となる事故の典型的な形態は、**信号機のある交差点**で、**横断歩道を通行中の高齢者**と、**右折進行してきた車両**が衝突（例：右の写真参照）

高齢歩行者が事故に遭遇する典型的な形態



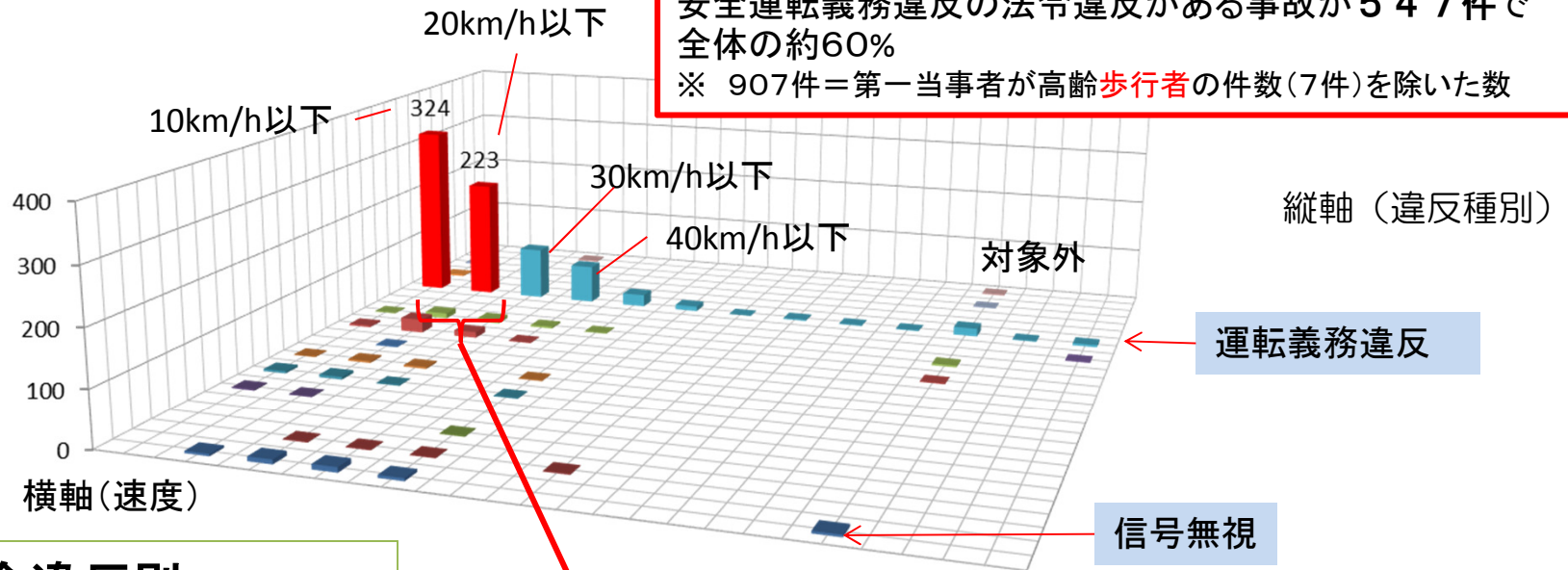
## (2) 高齢ドライバーの事故分析

件数＝平成25年中

### ○ 衝突時の速度と違反状況

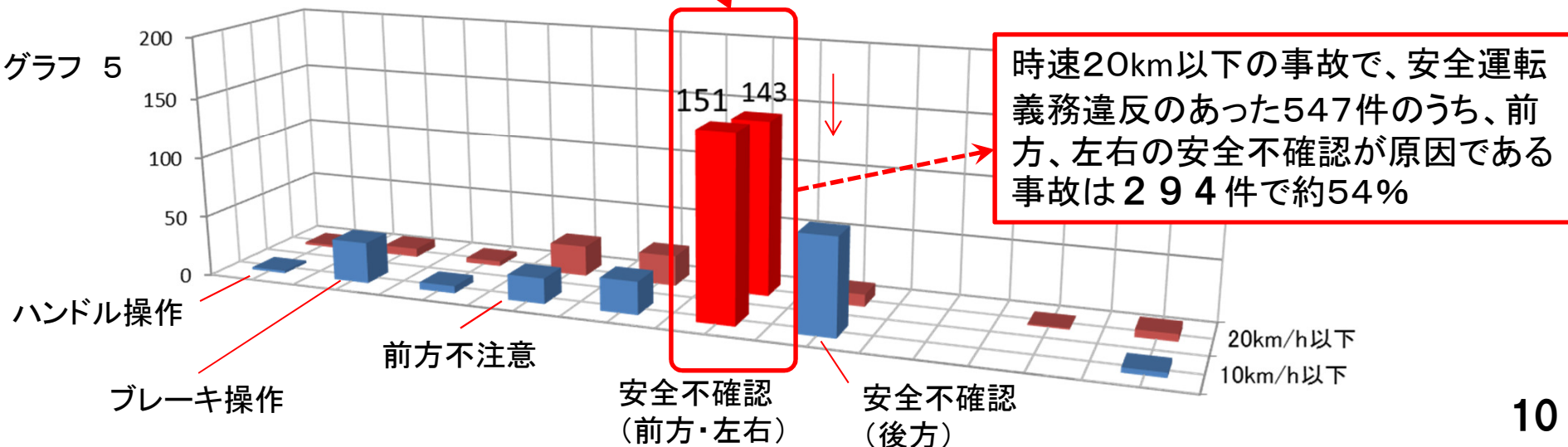
高齢者が第一当事者(車両運転)の交通事故(※907件)のうち、衝突時の速度が時速「20km以下」で、かつ、安全運転義務違反の法令違反がある事故が547件で全体の約60%  
 ※ 907件＝第一当事者が高齢歩行者の件数(7件)を除いた数

グラフ 4



### ○ 法令違反別

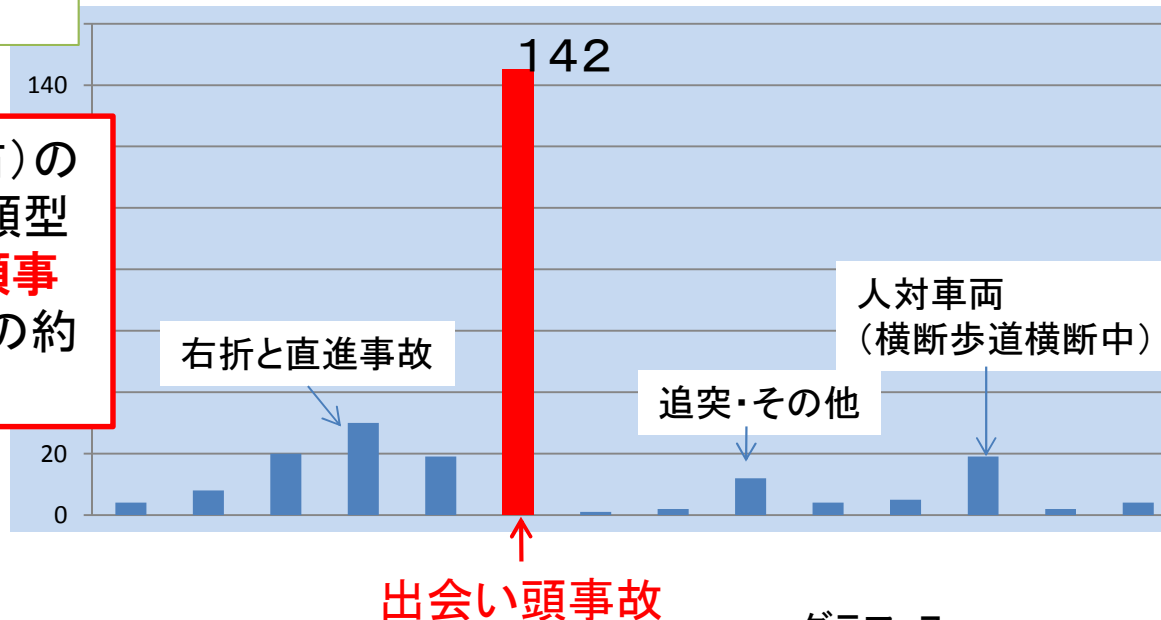
グラフ 5



時速20km以下の事故で、安全運転義務違反のあった547件のうち、前方、左右の安全不確認が原因である事故は294件で約54%

○ 事故形態別

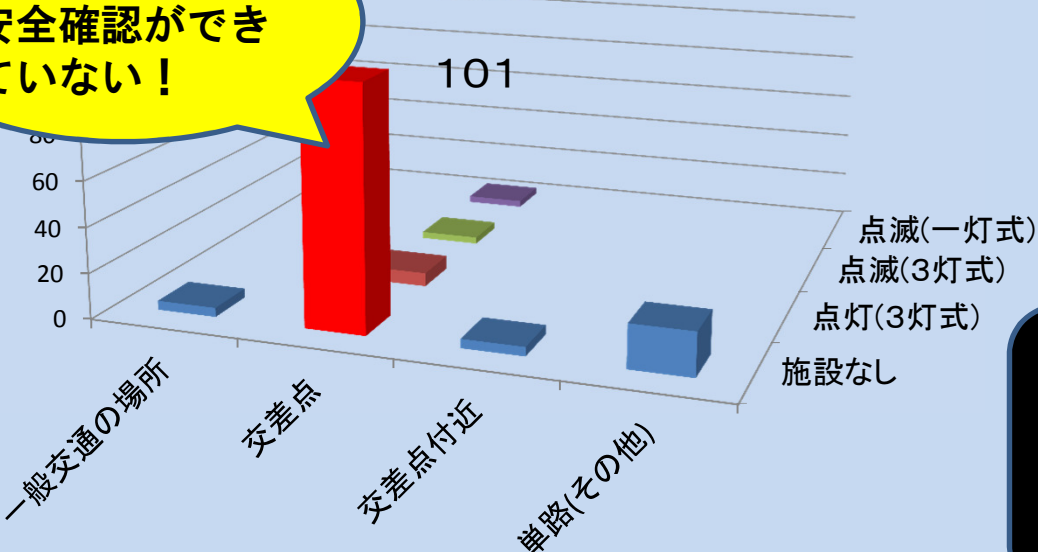
安全不確認(前方、左右)の294件について、事故類型別に見ると、「**出会い頭事故**」が142件で、全体の約48%



グラフ 7

○ 交通事故発生場所別

高齢者は十分な安全確認ができていない!



出会い頭事故の142件を「発生場所別・信号設置状況別」に見ると、信号設備のない交差点での発生が圧倒的に多く、101件と全体の約71%

高齢運転者を交通事故から守るためには、信号機のない交差点の安全対策が必要